

自分を変えるきっかけ

橋本 悠汰

●研修まで

私は中学の時に前高のホームページなどを見ていてこの研修のことを知った。もともと海外に憧れのようなものを持っていて、また世界のトップ大学であるオックスフォード大学やケンブリッジ大学を見に行くことができる機会なんてめったにないだろうし、ここでしか経験できないことがあるだろうと思って参加を決めた。前高に入って最初のうちは「Oxbridge 研修行けるように頑張るぞー！」などとやる気に満ちていたが、2学期、3学期になるにつれて目標、将来の夢などが曖昧になって、成績も落ちてきていた。その状態で本研修に臨んだ。

●1日目

羽田からロンドンのヒースロー空港まで旅立った。飛行機内は思っていたよりも快適で、映画などを楽しめたのが良かった。到着して、まずは入国審査があったが、団体だったというのもあってあまり質問はされなかった。入国審査官の人が気さくにも”NIGIRI”と言ってきて、やはり日本といえば SUSHI のイメージが強いのかなと思った。オックスフォードに着くと、まず街の歴史的風景の美しさに圧倒された。寮では3人の RA からの説明(もちろん英語で)があったが、自分にとっては聞きとるのが難しく、ヒアリング力の無さを実感した。宿泊りする部屋(1人部屋)は快適だったため、夜にはぐっすり眠れた。(ただし寒かった。)

●2日目



朝、外を見てみると雪が降っていた。そんな中、活動が本格的に始まった。ウェルカムティーでは RA の Peter と話すことができた。話しかけてみるとやさしく応えてくれたので、積極的に挑戦してみることが大切なのだなと思った。その後は、最初のクリス先生のレッスンがあった。クリス先生は説明にアクションなどを交えたりしていたので、とてもわかりやすく、また楽しかった。午後には紅林氏によるレクチャーがあり、今の自分が何のためにがんばるべきなのかを考えることができた。内容満載の一日だったので、夜にはとても疲れていて、部屋に戻るやいなやベッドで寝てしまった。(しおりを書かずに...)

●3日目

ケンブリッジ大学へ行った。バスの中でしおりを集められたが、自分は書き終えることができていなかった。しっかりとしおりを書く時間を確保するべきだった。(もししおりを書き忘れてしまったら、信頼関係を保つためにも素直に忘れてしまったと伝えることが大事だ。)ケンブリッジはオックスフォードに比べるとやや都会なように感じた。サイエンスフェスティバルでは展示を回ったが、自分の英語力ではなんとなくしか理解ができなかった。「もっと単語やリスニング面で英語を勉強しなくては！」と思った。

●4日目

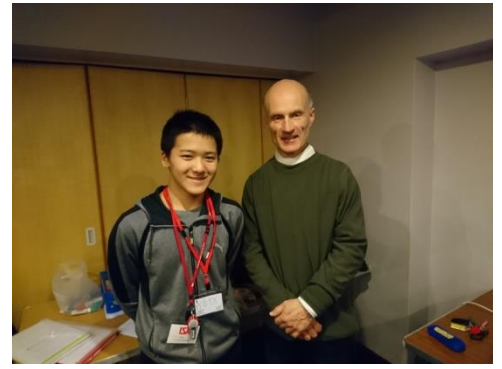
午前中には、オックスフォード大学自然史博物館とそれに隣接するピットリバース博物館を訪れた。ピットリバース博物館ではクリス先生に日本の歴史について説明できる機会があったが、うまく説明することができなかったのが悔しかった。日ごろから何かを英語で表現してみることが大切だと思った。午後には、岡本氏によるレクチャーがあった。とても考え方がしっかりしている方だと感じられた。いま生活を送っていく中で、何が目的で何が手段かということ意識しなければいけないと思った。



(右上▲日本では馴染みないがヒトの入植により絶滅したとされるドーードー。自然史博物館。)

● 5 日目

午前中のティーブレークでは RA たちと折り紙が盛り上がった。RA の Beatrice は小さい折り鶴、手裏剣などが気に入ったようだった。日本の文化に興味を持ってもらえてよかったと思う。午後には、準備してきたプレゼンの本番があった。原稿を覚えきることができず、メモを見ながらの発表になってしまったが、クリス先生に教わったように、どの部分を強調すべきかを意識して発表することができた。ここでも、頭の中のイメージを英語で表現する力が必要だと思った。夜にはクリス先生による最後のレッスンがあった。毎日夜遅くまでレッスンをしてくれたクリス先生には本当に感謝している。



(▲クリス先生と 2 ショット)

● 6 日目



(▲ロンドン大学正面)

朝ロンドンへ向かう前、RA たちが見送ってくれた。オックスフォードでの日々はあっという間で、とても楽しく内容の濃い日々であった。ロンドンでは科学博物館、自然史博物館、大英博物館の3つの博物館を見学した。特に大英博物館では、ロゼッタストーンなど有名なものを見ることができ感動した。いくつか石像にはストーリーがあったりして楽しかった。夕食時にはロンドン大学生の貴島さんと竹本さんとお話することができた。竹本さんは、高校卒業後 UCL で一年間の準備期間のようなものを経て、今は学部で犯罪科学を学んでいるそうだ。日本ではまだ学べないことを学べるのも留学の良い点だと思った。

●この研修を通して

- ・何事に対しても積極的に試してみることの大切さを感じた。この研修の始めのうちは RA たちに話しかけるのをためらってしまっていたが、いざ話しかけてみると楽しく会話することができた。試してみなければ得られないものを得ることができたと思う。今後、何か挑戦できる機会があるときは積極的に試してみたいと思う。
- ・「海外留学してみたい！」と強く思った。この研修でのイギリスでの滞在は一週間にも満たない短いものであったが、食事や建物などいろいろな面で日本との違いを知ることができた。紅林氏も「留学は効率よく世界が知れる。」とおっしゃっていた。あとはオックスフォード大学を実際に訪れてみて、純粹に「こんな環境で勉強できるなんていいな〜。」と思った。
- ・「勉強」のとらえ方が変わったと思う。日本にいと大学に入ることが目的で勉強をしているようにどうしても感じてしまっていた。また、「この偏差値だからこの大学かな〜。」のように偏差値の存在が強く感じる。この研修を通して、大学はあくまで「手段」であると強く思った。本当に学びたいことを学ぶために大学を選び、大学へ行くのが良いのであると。自分は今までは大学の先で何をしたいかということ意識せずに勉強に取り組んでいたが、今ではそのようなことも意識できるようになったと思う。また、興味のある分野について本を読んだり、調べたりすることも大切で、勉強のモチベーションにもつながると思った。

●最後に

Oxbridge 研修に参加したことで、多くのことを経験し、学ぶことができた。この研修に関して自分たちを支えてくれた方々、そして私をこの研修に行かせてくれた家族には本当に感謝している。